2015年度をもって専任教員を退任された先生方から、
ご挨拶をいただきましたのでご紹介します。

退任教員紹介

張　輝 先生
チョウ　キ

みなさんと共有した「時」を感謝し、みなさんとできた「縁」を明日へ。

みなさんの成長「力」を熱望し、みなさんの「輪」の拡大を確信する。

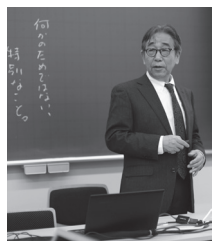
江口 圭一 先生
エグチ　ケイイチ

この度、ビジネスデザイン研究科を退任することになりました。研究科委員長の亀川先生をはじめ、多くの先生方や学生の皆さまからの温かいご支援とご協力を頂きまして、なんとか無事に5年の任期を終え、こうして退任の挨拶が出来ることに感謝しております。とは申しましても、5年の間には何かと至らぬ点も多かったと思いますし、皆さまのご協力なしには、この大役をまっとう出来たとは思えません。改めて皆さまにお礼を申し上げたいと思います。最後に、皆さまの今後のご活躍を祈念致しまして、退任の挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

平川 克美 先生
ヒラカワ　カツミ

最初の授業のことは、今でも鮮明に覚えている。期待と不安を胸に、十数人が待つ教室に入った。そして、ホワイトボードに自分の名前を書いた。学生に向かって、あなた方が知っていると思っていることは、本当に確かなことなのか、そもそも何かを学び、何かを知るということは、どういうことなのかについて話をした。おそらく、ビジネスデザイン科の授業としては、異例の話であり、学生は訝しい顔で私を見ていたような気がする。ワンクールが終了する日に、一人の中国人学生が私の前に進み出てきて、こんな授業は初めてであり、このクラスを選んでよかったと言ってくれたのが印象に残っている。

その年の『日本経済史』の授業は、私にとって特別な意味を持つものとなった。わたしと同年や年上の学生が何人か在籍していた。それぞれ、ビジネス経験も豊富であり、社会的地位もある人たちで、なかなか手強かった。その中のひとりに、銀行の支店長経験者がいた。彼は私の経済史観に対して最初は、興味無げな様子だった。しかし、ある日を境にして、彼の眼の色が変わった。戦後の高度成長の下絵を描いた経済学者である下村治の業績と思想について話をしたときからである。下村は、1973年の高度経済成長期の終わりに、これからは成長ではなく、均衡を目指すべきであると説いていた。下村の識見は半世紀早すぎたのかもしれない。しかし、このようなエコノミストが日本にいたことだけは、私の授業の学生には知っておいてほしかったのである。この授業が最終回に近づくにつれて、私はティーチング・ハイのような状態になり、授業も白熱したものとなった。最終日、これで皆さんとお別れだと言って授業を終えようとすると、教室全体に自然に拍手が起きた。教え、教わることが、こんな知的な興奮をもたらすのかと、知った瞬間であった。



平 浩一郎 先生
タイラ　コウイチロウ

ビジネスデザイン科の先生方、研究科事務室の皆様、そして学生の皆さん5年間大変お世話になりました。

ビジネスデザイン科に赴任した2011年4月は東日本大震災の翌月で当時証券会社のサラリーマンでもあった小生はまだ震災後の接待自粛ムードがある金曜日の深夜に接待先から会社に戻り自分の部屋に籠って授業が始まる翌日土曜の昼までに教材を準備し、そのまま180分の授業に毎週臨んでおりました。

当時はリーマンショックや大震災でビジネス環境の先行きに非常に不安を抱えながらも、その打開策を学びに求める学生の皆さんの志に触発されながら、今から思うと決して準備万全ではなかったことについてこの場を借りてお詫びさせていただければと存じます。

そのような皆さんの影響もあり、私事ではありますがその翌年に脱サラ・起業し3年後の昨年には自分の会社としては初の大型ホテルを開業させ、ビジネスデザイン科における教職とも併せて非常に充実した5年間とすることが出来ました。

IT革命後の昨今はビジネス成功の重要な要素である情報入手という意味ではほぼ平準化された世の中に近づいてきました。よって、これからのビジネスの成功には高い志はもちろんのこと、より一層先を読む力が重要と思料しております。学生の皆さんがビジネスデザイン科に入学されたその志をさらに高め、多くの授業において思考をフル回転させて先見性に磨きをかけていただくことで、成功されることを心より祈念しております。ありがとうございました。